

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載
【部門区分】第7部門第3区分
【発行日】平成26年10月30日(2014.10.30)

【公開番号】特開2014-175976(P2014-175976A)
【公開日】平成26年9月22日(2014.9.22)
【年通号数】公開・登録公報2014-051
【出願番号】特願2013-48781(P2013-48781)
【国際特許分類】

H 0 4 R 19/02 (2006.01)

H 0 4 R 7/04 (2006.01)

H 0 4 R 1/02 (2006.01)

【F I】

H 0 4 R 19/02

H 0 4 R 7/04

H 0 4 R 1/02 1 0 3 B

【手続補正書】

【提出日】平成26年8月5日(2014.8.5)

【手続補正1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項1】

平膜状の振動膜と、該振動膜の両面に配置された電極膜と、前記振動膜と前記電極膜との間に介在させた緩衝膜と、を有する多層膜体と、

前記多層膜体を平膜面に直交する方向に挟持し、前記多層膜体を内包する形状からなる一対の外装体と、を備え、

前記緩衝膜の一方端辺は、前記外装体に固定され、前記緩衝膜の他方端辺が前記外装体に固定されていない、静電型スピーカ。

【請求項2】

前記一対の外装体は、互いに引き寄せ合う力を発生する磁力発生部材を備える、請求項1に記載の静電型スピーカ。

【請求項3】

前記多層膜体と前記外装体との間に配設された保護膜を備え、

前記保護膜の前記緩衝膜に重なり合う一方の端辺は、前記外装体に固定され、前記保護膜の他方の端辺が前記外装体に固定されていない、請求項1または請求項2に記載の静電型スピーカ。

【請求項4】

前記振動膜と前記緩衝膜の間にギャップ層が配置される、請求項1乃至請求項3のいずれかに記載の静電型スピーカ。

【請求項5】

前記外装体に、前記外装体の厚み方向に貫通する穴が形成される、請求項1乃至請求項4のいずれかに記載の静電型スピーカ。

【請求項6】

平膜状の振動膜と、該振動膜の両面に配置された電極膜と、前記振動膜と前記電極膜との間に介在した緩衝膜と、を有する多層膜体と、

前記電極膜の一方の外側に配置された巻回補助体と、を備え、

前記緩衝膜の一方端辺および他方端辺はそれぞれ互いに固定されており、

前記電極膜および前記緩衝膜は伸縮性を有する、静電型スピーカ。

【請求項 7】

前記多層膜体と前記巻回補助体との間に配設された保護膜を備え、

前記保護膜は前記緩衝膜とともに前記一方端辺および他方端辺がそれぞれ互いに固定されており、

前記保護膜は伸縮性を有する、請求項 6 に記載の静電型スピーカ。

【請求項 8】

前記振動膜と前記緩衝膜の間にギャップ層が配置される、請求項 6 または請求項 7 に記載の静電型スピーカ。

【請求項 9】

前記巻回補助体に、貫通孔が形成される、請求項 6 乃至請求項 8 のいずれかに記載の静電型スピーカ。

【請求項 10】

前記一方端辺が固定される軸部材を備え、

該軸部材の内部には、前記振動膜および前記電極膜に接続する接続導体が配設されている、請求項 1 乃至請求項 9 のいずれかに記載の静電型スピーカ。

【請求項 11】

前記多層膜体が前記軸部材に巻き付けられた状態を定常状態とし、前記多層膜体が前記軸部材から引き出された状態で前記定常状態に戻るように、前記軸部材を回転させる付勢力を発生する付勢力発生部材を備える、請求項 1 乃至請求項 10 のいずれかに記載の静電型スピーカ。

【請求項 12】

前記多層膜体が前記軸部材から所定長さ引き出された状態を維持するラチェット機構部材を備える、請求項 11 に記載の静電型スピーカ。